

(坂和章平著、文芸社、2006(平成18)年9月15日発行、定価1800円+税)

ISBN 4-286-01660-9

『実況中継 まちづくりの法と政策』4部作の完成に寄せて

巷「3部作」とよく聞かすが、4部作ともなると、ホップ・ステップ・ジャンプで達成感をみたとの次は、さすがにエネルギーの消耗とネタ切れのせいであろうが、余り聞かない。坂和弁護士と愛媛大学法学部での「都市法政策」の授業を再現した『実況中継 まちづくりの法と政策』も第4作目に入った。よく続くのだと思う。これは氏の2年ごとにシリーズ化するという使命感もあるが、少し前までは考えられなかった「景観法」がでてきたり、耐震度偽装問題が社会問題化するなど、氏の独壇場である都市法のテーマが次々と出てきて、勉強好きな氏には、面白くてどうにもやめられないためであろう。

もしはじめての読者であれば、2日目第2限の「公開市民講座」で私なりに氏の人となりや仕事を紹介しているので、先ずそちらをお読みいただきたい。そこで私は「坂和弁護士はいつ寝ているのだろうか。本を書いたりする時間を本業に割けたらもっと儲かるだろうに！」と正直な思いを述べているが、万人に平等に与えられている1年365日の貴重な4日間を私たちの大学の集講義に当てていたことに感謝している。

前3部作を簡単に紹介すると、都市計画学会の石川賞と日本不動産学会の実務著作賞をダブル受賞した第1作は日本の都市法制の鳥瞰と阪神淡路大震災でのまちづくりの実践を、第2作はパブルの崩壊と中心街地の衰退、とりわけ駅前再開発の破綻を、第3作は小泉構造改革に象徴される都市再生の行方などを縦横に語られた。この2年ごとに、「定石観測」した3部作が結実したが、法科大学院のテキストとして注目される『実務不動産法講義』(05年・民事法研究会)である。是非ご覧いただきたい。

このたびの第4作はこれまでの3作とは大分趣を異にしていてある。「2足のわらじ」がすっかり定着した法律家・坂和章平と映画評論家・坂和章平の共著の観がある。読者も映画を通じての「坂和流」の人生観・歴史観・恋愛観を学生とともに楽しみたいだけではないと思う。氏は最近中国及び中国映画好きが高じているようであるが、本書では悪化の一途を辿っている日中関係を考えるうえでも好題の問題提起がなされている。景観法に続き、これまで日本の都市政策の180度転換となると思われる「まちづくり三法」の行方など、氏の発言を聞きたいテーマが目白押しである。2年後も氏が生まれ育った松山の愛媛大学のキャンパスに、矢野雄雄教授の命名になる「坂和節」が響きわたるのを楽しみにしている。

2006(平成18)年5月22日

愛媛大学法学部教授 本田 博利

はがき

私のライフワークの1つは柱である『実況中継 シリーズ』は、1999(平成11)年以降毎年愛媛大学法学部で実施してきた「都市法政策」の集講義をまとめた本ですが、今回は2005(平成17)年12月25日の4日間の集講義をまとめた『実況中継 シリーズ パート4』を出版社に日本評論社に委託して出版することができました。ちなみに過去3回のそれを整理すればおとりのとおりです。

『実況中継 パート1』(99年11月12・15日講義、00年7月出版) 『実況中継 パート2』(01年12月7・10日講義、02年9月出版) 『実況中継 パート3』(03年12月5・8日講義、04年6月出版) 『実況中継 パート4』(05年12月25・28日講義、06年7月出版) 私の都市問題への取り組みの出発点は1984年の大阪駅前再開発研究でしたが、再開空欄検討の視点は、『偽装耐震都市問題』への取り組み(87年)の出版を経て、現在は「被認可都市再開発」に集約されています。都市再生、85年、被認可に立つ「都市再開発」(87年)の出版を経て、現在は「被認可都市再開発」に集約されています。都市再生、85年、被認可に立つ「都市再開発」(87年)の出版を経て、現在は「被認可都市再開発」に集約されています。

- ① 04年3月31日、4月3日の杭州・紹興・烏程旅行記
② 04年11月13日の熊本・熊本県・熊本県旅行記
③ 04年11月28日、12月5日の西原旅行記、昆明・麗江・大理旅行記
④ 05年3月13・16日の山梨省ケルズ(曲阜・泰山・濟南・青島)
⑤ 05年10月20・24日の山東省ケルズ(曲阜・泰山・濟南・青島)
⑥ 06年3月17・20日の上海・蘇州・無錫・鎮江・揚州・南京、開港旅行記
⑦ 2006年8月の大連・旅順・瀋陽の第1回中国旅行記(既に前号に記す)
⑧ 2006年9月の大連・旅順・瀋陽の第2回中国旅行記(既に前号に記す)
⑨ 2006年10月の大連・旅順・瀋陽の第3回中国旅行記(既に前号に記す)
⑩ 2006年11月の大連・旅順・瀋陽の第4回中国旅行記(既に前号に記す)
⑪ 2006年12月の大連・旅順・瀋陽の第5回中国旅行記(既に前号に記す)
⑫ 2006年1月の大連・旅順・瀋陽の第6回中国旅行記(既に前号に記す)
⑬ 2006年2月の大連・旅順・瀋陽の第7回中国旅行記(既に前号に記す)
⑭ 2006年3月の大連・旅順・瀋陽の第8回中国旅行記(既に前号に記す)
⑮ 2006年4月の大連・旅順・瀋陽の第9回中国旅行記(既に前号に記す)
⑯ 2006年5月の大連・旅順・瀋陽の第10回中国旅行記(既に前号に記す)
⑰ 2006年6月の大連・旅順・瀋陽の第11回中国旅行記(既に前号に記す)
⑱ 2006年7月の大連・旅順・瀋陽の第12回中国旅行記(既に前号に記す)
⑲ 2006年8月の大連・旅順・瀋陽の第13回中国旅行記(既に前号に記す)
⑳ 2006年9月の大連・旅順・瀋陽の第14回中国旅行記(既に前号に記す)
㉑ 2006年10月の大連・旅順・瀋陽の第15回中国旅行記(既に前号に記す)
㉒ 2006年11月の大連・旅順・瀋陽の第16回中国旅行記(既に前号に記す)
㉓ 2006年12月の大連・旅順・瀋陽の第17回中国旅行記(既に前号に記す)
㉔ 2007年1月の大連・旅順・瀋陽の第18回中国旅行記(既に前号に記す)
㉕ 2007年2月の大連・旅順・瀋陽の第19回中国旅行記(既に前号に記す)
㉖ 2007年3月の大連・旅順・瀋陽の第20回中国旅行記(既に前号に記す)
㉗ 2007年4月の大連・旅順・瀋陽の第21回中国旅行記(既に前号に記す)
㉘ 2007年5月の大連・旅順・瀋陽の第22回中国旅行記(既に前号に記す)
㉙ 2007年6月の大連・旅順・瀋陽の第23回中国旅行記(既に前号に記す)
㉚ 2007年7月の大連・旅順・瀋陽の第24回中国旅行記(既に前号に記す)
㉛ 2007年8月の大連・旅順・瀋陽の第25回中国旅行記(既に前号に記す)
㉜ 2007年9月の大連・旅順・瀋陽の第26回中国旅行記(既に前号に記す)
㉝ 2007年10月の大連・旅順・瀋陽の第27回中国旅行記(既に前号に記す)
㉞ 2007年11月の大連・旅順・瀋陽の第28回中国旅行記(既に前号に記す)
㉟ 2007年12月の大連・旅順・瀋陽の第29回中国旅行記(既に前号に記す)
㊱ 2008年1月の大連・旅順・瀋陽の第30回中国旅行記(既に前号に記す)
㊲ 2008年2月の大連・旅順・瀋陽の第31回中国旅行記(既に前号に記す)
㊳ 2008年3月の大連・旅順・瀋陽の第32回中国旅行記(既に前号に記す)
㊴ 2008年4月の大連・旅順・瀋陽の第33回中国旅行記(既に前号に記す)
㊵ 2008年5月の大連・旅順・瀋陽の第34回中国旅行記(既に前号に記す)
㊶ 2008年6月の大連・旅順・瀋陽の第35回中国旅行記(既に前号に記す)
㊷ 2008年7月の大連・旅順・瀋陽の第36回中国旅行記(既に前号に記す)
㊸ 2008年8月の大連・旅順・瀋陽の第37回中国旅行記(既に前号に記す)
㊹ 2008年9月の大連・旅順・瀋陽の第38回中国旅行記(既に前号に記す)
㊺ 2008年10月の大連・旅順・瀋陽の第39回中国旅行記(既に前号に記す)
㊻ 2008年11月の大連・旅順・瀋陽の第40回中国旅行記(既に前号に記す)
㊼ 2008年12月の大連・旅順・瀋陽の第41回中国旅行記(既に前号に記す)
㊽ 2009年1月の大連・旅順・瀋陽の第42回中国旅行記(既に前号に記す)
㊾ 2009年2月の大連・旅順・瀋陽の第43回中国旅行記(既に前号に記す)
㊿ 2009年3月の大連・旅順・瀋陽の第44回中国旅行記(既に前号に記す)

状況にも注目しています。さらに私の都市政策の集講義では、中国のみならず、韓国・台湾・香港の政治・経済・社会情勢の分析も重要なテーマです。これらのテーマについては若い生活者に関心を持っていただくためには、何となく映画ネタが1冊、そう考えた私は、今回も映画ネタを用いていますので悪くありません。……

2006(平成18)年6月16日

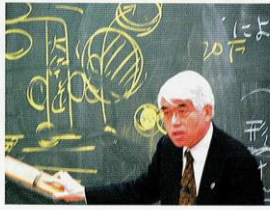
弁護士 坂和 章平

* 『実況中継4』は朝日21関西スクエア会報vol.87で紹介されました。

**『実況中継 まちづくりの法と政策 PART4』
が出版されました。**

弁護士の坂和章平さんから

1999年から2年ごとに愛媛大学法文学部で行っている「都市法政策」の集中講義をまとめた「実況中継シリーズ」はおかげさまでパート1からⅢまで好評でした。そして今般、『実況中継 まちづくりの法と政策 PART4-「戦後60年」の視点から』が文芸社から出版されました(書店に並ぶのは9月以降です)。



このパート4は2005年12月2～5日の4日間の集中講義をまとめたものです、

2005年はちょうど「戦後60年」にあたるため、「戦後60年」を強く意識した講義となりました。また都市法の枠にとどまることなく、郵政民営化と9・11総選挙の意義、姉齒元一級建築士による耐震強度偽装問題の本質、西村眞悟議員の非弁事件の見方等々から映画ネタ、中国旅行記まで「坂和節」は健在です。

講義で使用した56頁にわたる詳細なレジメはもちろん、講義で使用した資料もできる限り掲載し、より読みやすくなりやすい仕上がりになっています。定価1800円(税別)と格安になっていますが、全464頁の中は情報満載できっと満足していただけるものと自負しています。是非一度お読みいただき、坂和節を満喫して下さい。ご意見・感想をお待ちしています。ご注文・お問合せは坂和総合法律事務所(☎06-6364-5871)まで。



朝日新聞社に無断で転載することを禁止します。

承諾書番号 19-0257

* 『実況中継4』は2006(平成18)年9月17日付愛媛新聞で紹介されました。

愛媛新聞 2006年(平成18年)9月17日 日曜日

「実況中継 まちづくりの法と政策PART4」 坂和章平著

松山市内で都市法を専門にす大阪の弁護士

が、二〇〇五年冬に愛媛大学で開いた集中講義をまとめた「四日間計十五時間の講義を丸ごと所収」の講義を丸ごと所収し、政治や官公庁の実情、財政、金融、歴史にかなりのウェイトを置き、都市問題に多面的な光を当てた。「現実社会の中でダイナミックに動く都市問題が面白い」と話す著者の姿勢が伝わっており、映画から社会や歴史を掘り出す手引きにもなっている。

文芸社・一九〇〇円

転載許可番号 G20061001-00077

(ごあいさつ)

私が1999年から2年ごとに愛媛大学法文学部で行っている「都市法政策」の集中講義をまとめた「実況中継シリーズ」はパート1からⅢまで好評で、パート4の出版予定はないのかと書店に問合せが入ることもありました。

そんな皆様の期待にお応えして、今般、『実況中継 まちづくりの法と政策PART4-「戦後60年」の視点から』(全464頁)を出版することができました。今回は出版社を日本評論社からシネマルーム等の出版で編集者との息もぴったりになってきた文芸社に変更し、56頁にわたる詳細なレジメはもちろん、講義で使用した資料もできる限り掲載し、より読みやすくなりやすいものに仕上げました。

また表紙のデザインも一新し、私も3カ所でその顔をのぞかせています。

さらに文芸社にも御協力いただき従来より1,000円以上値下げし、定価1,800円(税別)と学生にも買いやすい値段にしました(値段は下がりましたが、内容はパート1～3を凌ぐものと自負しています)。

* * * * *

PART4は2005年12月2～5日の4日間、愛媛大学法文学部で実施した「都市法政策」の集中講義をまとめたものです。「戦後60年」にあたる2005年の講義であるため、「戦後60年」を強く意識した講義となりました。また都市法の枠に限らず、郵政民営化と9・11総選挙の意義、姉齒元一級建築士による耐震強度偽装問題の本質、西村眞悟議員の非弁活動の見方等々から映画ネタ、中国旅行記まで「坂和節」はとどまることをしりません。

皆様におかれては是非、本書を楽しくかつ真剣に読んでいただき、あちこちで議論を戦わせていただきたいと思います。多くの御意見、御感想をお寄せいただければ幸いです。